

2026年5月期 決算補足説明資料

2026年7月14日

ダイコー通産株式会社

目次

1	2026年5月期決算概要	P 2
2	2027年5月期業績予想	P 8
3	株主還元	P 11
4	トピックス	P 13

1

2026年5月期決算概要

前期比・計画比ともに、増収増益の決算となり、過去最高値を更新しました

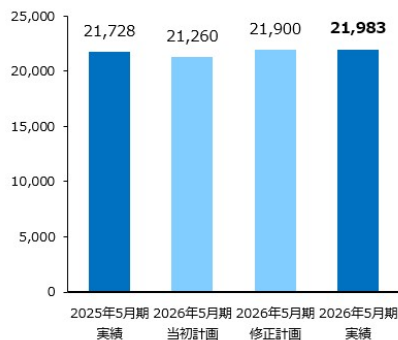
大型の消防通信設備案件及び屋内電源設備案件並びに屋外通信設備案件などの受注が好調に推移したことや、日常取引が増加したことにより、2026年5月期の業績は、売上高・各利益ともに、前年度達成した**過去最高値をさらに更新**しました。

(単位：百万円、下段は構成比)

	2025年5月期 実績	2026年5月期 当初計画	2026年5月期 修正計画	2026年5月期 実績	前期比	当初 計画比
売上高	21,728	21,260	21,900	21,983	101.2%	103.4%
売上総利益	3,099 (14.3%)	3,173 (14.9%)	3,260 (14.9%)	3,282 (14.9%)	105.9%	103.5%
営業利益	1,171 (5.4%)	1,202 (5.7%)	1,227 (5.6%)	1,265 (5.8%)	108.0%	105.3%
経常利益	1,194 (5.5%)	1,233 (5.8%)	1,260 (5.8%)	1,303 (5.9%)	109.1%	105.7%
当期純利益	816 (3.8%)	830 (3.9%)	878 (4.0%)	915 (4.2%)	112.1%	110.3%

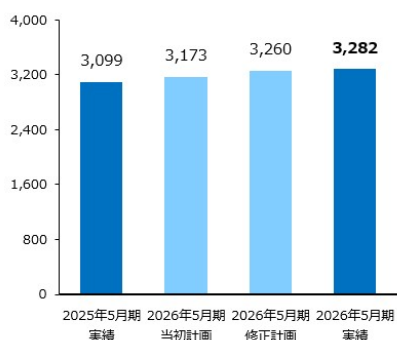
■ 売上高

(単位:百万円)



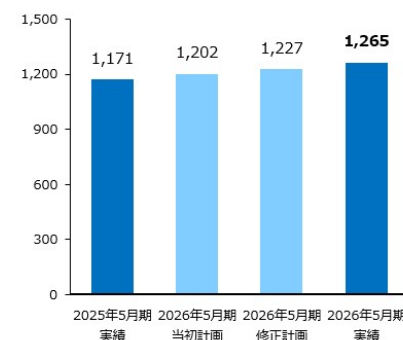
■ 売上総利益

(単位:百万円)



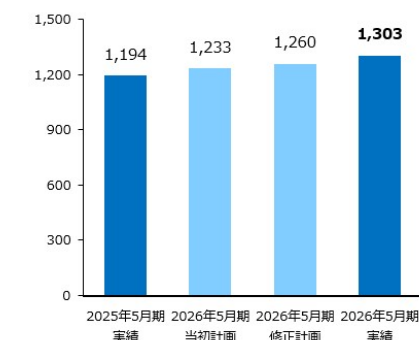
■ 営業利益

(単位:百万円)



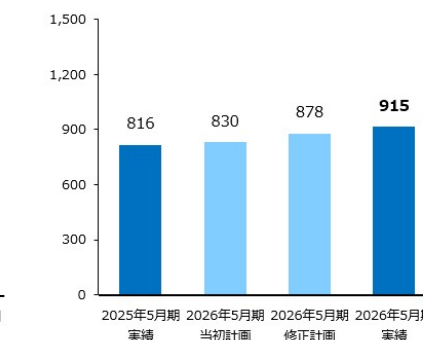
■ 経常利益

(単位:百万円)



■ 当期純利益

(単位:百万円)



日常売上・案件売上別の売上及び売上総利益の構成比詳細

日常・案件別

- ・案件売上
- ・案件内、大型案件
- ・日常売上

案件売上区分

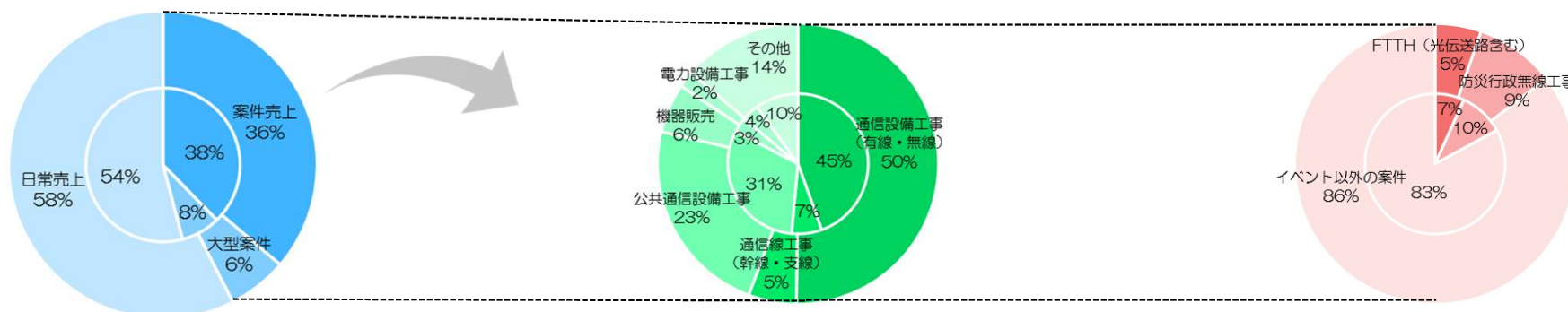
- ・通信設備工事
- ・通信線工事
- ・公共通信設備工事
- ・機器販売
- ・電力設備工事・その他

イベント案件区分

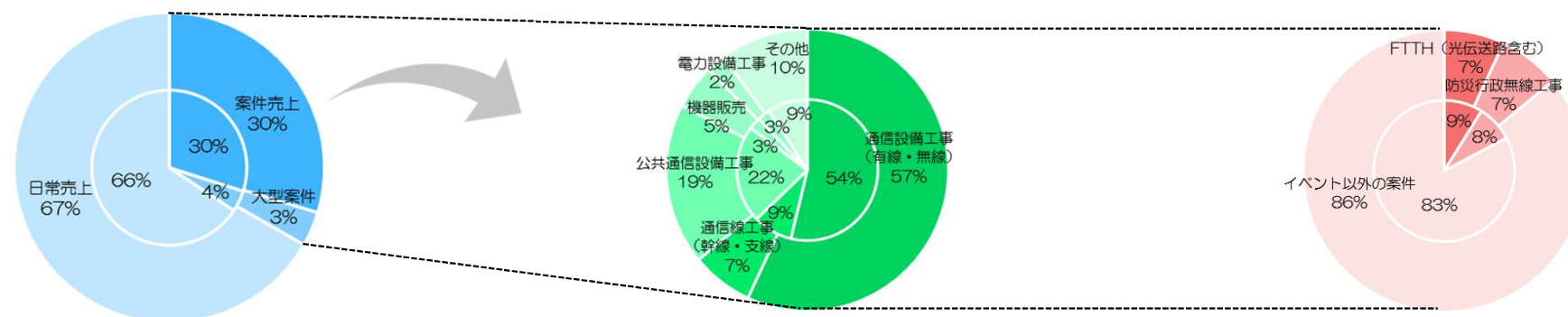
- ・FTTH（光伝送路含む）
- ・防災行政無線工事
- ・イベント以外の案件

■ 売上構成比

円グラフ 内側：2025年5月期累計
外側：2026年5月期累計

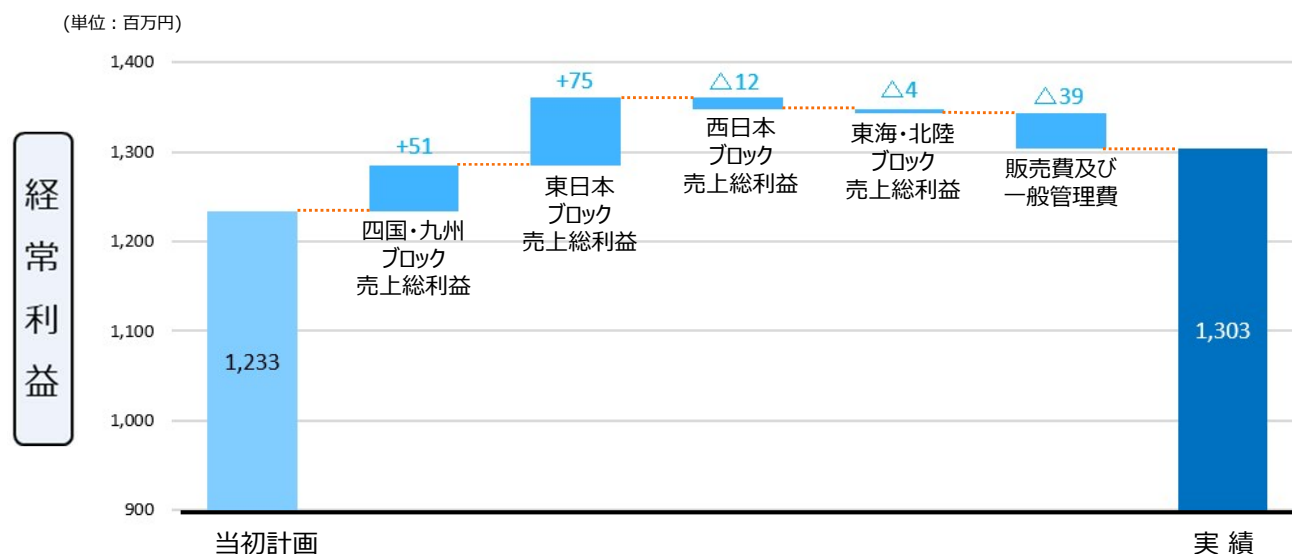
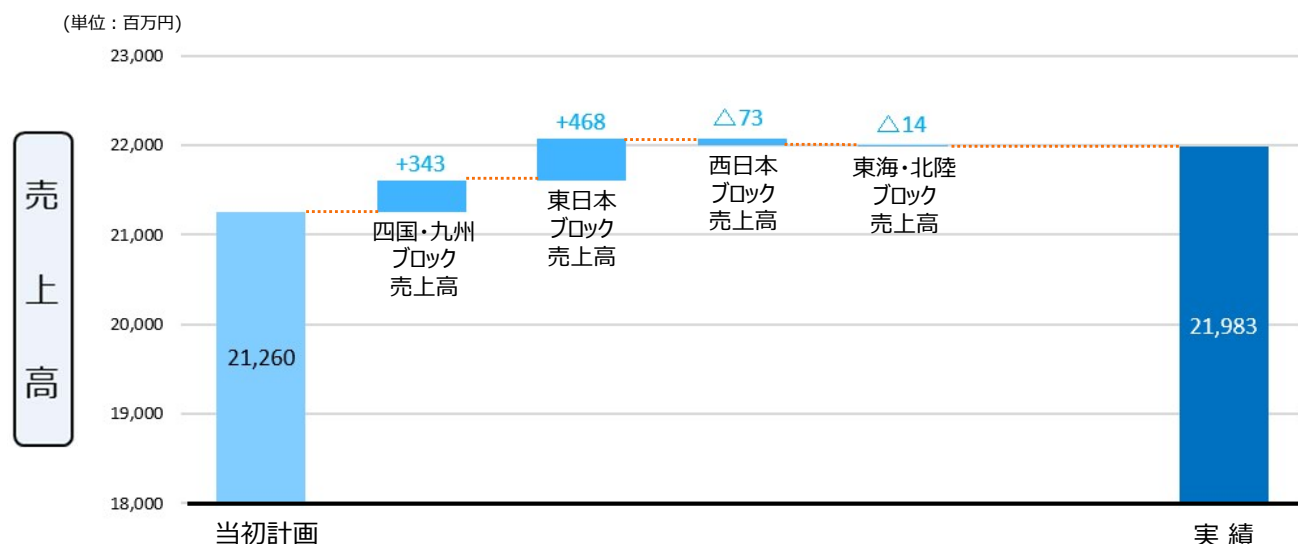


■ 売上総利益構成比



(注) 日常売上…日々受注する小口の売上。
案件売上…一定量まとまった受注による売上で100万円以上のもの。1億円以上のものは大型案件(特需)。

計画比の主な変動要因：売上高・経常利益



売上高	主な変動要因 (単位:百万円)
四国・九州ブロック	● 規模拡大：屋内電源設備案件+339、屋外通信設備案件+55、太陽光発電設備案件+40 ● 日常取引の増加：+69 ● 規模縮小：高速道路設備案件△157
東日本ブロック	● 規模拡大：屋内通信設備案件+596、屋外通信設備案件+185、防災行政無線案件+91、局向通信機器案件+85、屋内電源設備案件+47 ● 日常取引の増加：+113 ● 規模縮小：太陽光発電設備案件△320、警察通信設備案件△298、FTTH案件△52
西日本ブロック	● 規模拡大：局向通信機器案件+68、屋内電話設備案件+59、屋外電源設備案件+45 ● 規模縮小：高速道路設備案件△124、屋内通信設備案件△116
東海・北陸ブロック	● 規模拡大：屋内通信設備案件+115 ● 規模縮小：防災行政無線案件△88、高速道路設備案件△32、警察通信設備案件△13

経常利益	主な変動要因
四国・九州ブロック	売上増加に伴う売上総利益の増加
東日本ブロック	売上増加に伴う売上総利益の増加
西日本ブロック	売上減少に伴う売上総利益の減少
東海・北陸ブロック	売上減少に伴う売上総利益の減少
販売費及び一般管理費	従業員に対する特別賞与及び持株会特別奨励金の支給による人件費の増加

自己資本比率は高い水準にあり、財務基盤は安定しています

(単位：百万円)

項目		前事業年度 2025年5月31日	当事業年度 2026年5月31日	増減額	主な増減要因
流動資産		13,054	13,189	134	(増加要因) 現金及び預金 604百万円、商品 149百万円 (減少要因) 受取手形 304百万円、電子記録債権 12百万円、 売掛金 332百万円
	固定資産	4,532	4,510	△21	(増加要因) 土地 8百万円、繰延税金資産 20百万円 (減少要因) 建物(純額) 47百万円
資産合計		17,587	17,700	112	
流動負債		8,116	7,683	△432	(増加要因) 未払金 16百万円、未払費用 95百万円、前受金 14百万円 (減少要因) 支払手形 17百万円、電子記録債務 185百万円、 買掛金 234百万円、未払法人税等 68百万円、 未払消費税等 30百万円、預り金 25百万円
	固定負債	1,058	999	△59	(増加要因) 退職給付引当金 35百万円 (減少要因) 長期借入金 55百万円、役員退職慰労引当金 33百万円
負債合計		9,175	8,682	△492	
純資産合計		8,411	9,017	605	(増加要因) 当期純利益の計上 915百万円 (減少要因) 剰余金の配当により 319百万円
負債・純資産合計		17,587	17,700	112	

自己資本比率	47.8%	50.9%	3.1pt	
流動比率	160.8%	171.7%	10.9pt	
1株当たりの純資産	1,577円49銭	1,690円99銭	113円50銭	

安全性に問題はなく安定的に推移してます

（単位：百万円）

項目		前事業年度 2025年5月31日	当事業年度 2026年5月31日	増減額	主な増減要因
営業活動による キャッシュフロー		1,404	998	△406	（増加要因） 税引前当期純利益 1,303百万円、減価償却費 66百万円、 退職給付引当金の増加 35百万円、売上債権の減少 650百万円 （減少要因） 役員退職慰労引当金の減少 33百万円、棚卸資産の増加 152百万円、 仕入債務の減少 437百万円、法人税等の支払額 478百万円
投資活動による キャッシュフロー		102	△646	△749	（増加要因） 定期預金の払戻 8,477百万円 （減少要因） 定期預金の預入 9,111百万円
財務活動による キャッシュフロー		△317	△381	△63	（減少要因） 長期借入金の返済 51百万円、配当金の支払 319百万円
現金 及び 現金 同等 物	換算差額	△0	0	0	
	増減額	1,189	△29	△1,219	
	期首残高	933	2,123	1,189	
	期末残高	2,123	2,093	△29	（参考） 前事業年度末及び当事業年度末の5月31日は銀行休業日

（参考） 預入期間が3ヵ月を超える定期預金等

	前事業年度 2025年5月31日	当事業年度 2026年5月31日	増減額	
期首残高	5,628	5,275	△352	
増減額	△352	634	986	
期末残高	5,275	5,909	634	

2

2027年5月期業績予想

2027年5月期決算は、過去最高値での売上推移と増益を見込んでいます

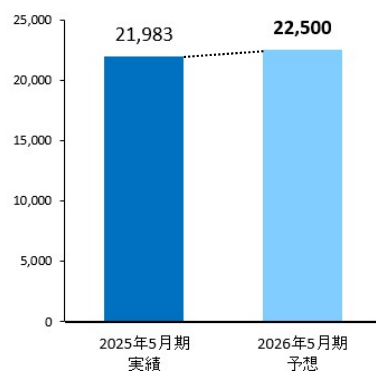
顧客基盤、取扱い商品数の拡充に加え、FTTH案件、CATV局センター設備案件及びCATV局加入者向け通信機器案件、さらに初期にデジタル化を完了した防災無線のリプレイス案件など、各案件獲得に取り組み、売上高・各利益ともに過去最高値の更新を見込みます。

（単位：百万円、下段は構成比）

	2026年5月期 （通期）実績	2027年5月期 （通期）予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	21,983	22,500	516	2.3%
売上総利益	3,282 (14.9%)	3,360 (14.9%)	77	2.4%
営業利益	1,265 (5.8%)	1,373 (6.1%)	107	8.5%
経常利益	1,303 (5.9%)	1,426 (6.3%)	122	9.4%
当期純利益	915 (4.2%)	950 (4.2%)	34	3.8%

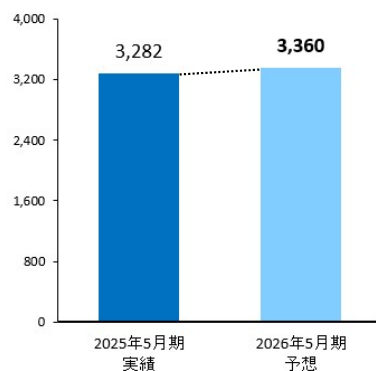
■売上高

（単位：百万円）



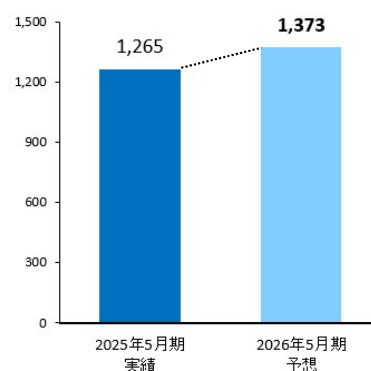
■売上総利益

（単位：百万円）



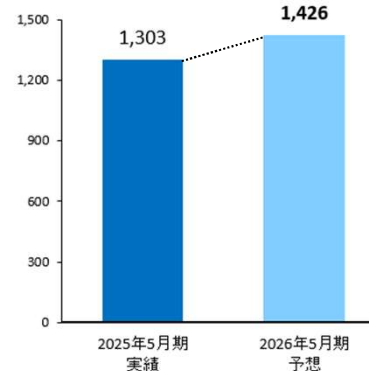
■営業利益

（単位：百万円）



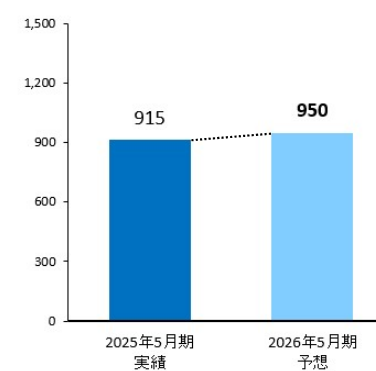
■経常利益

（単位：百万円）



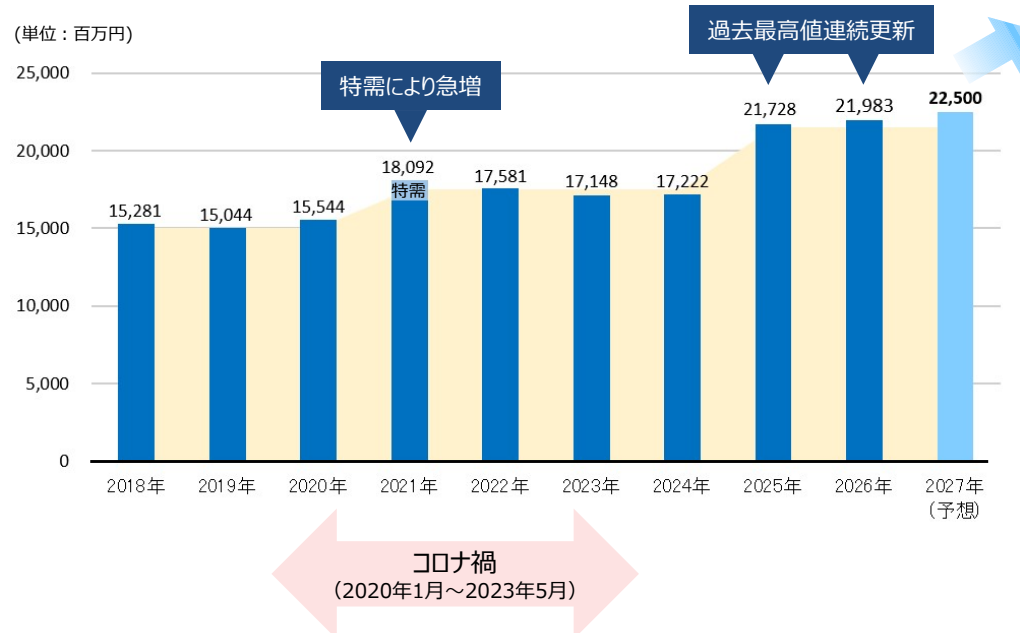
■当期純利益

（単位：百万円）

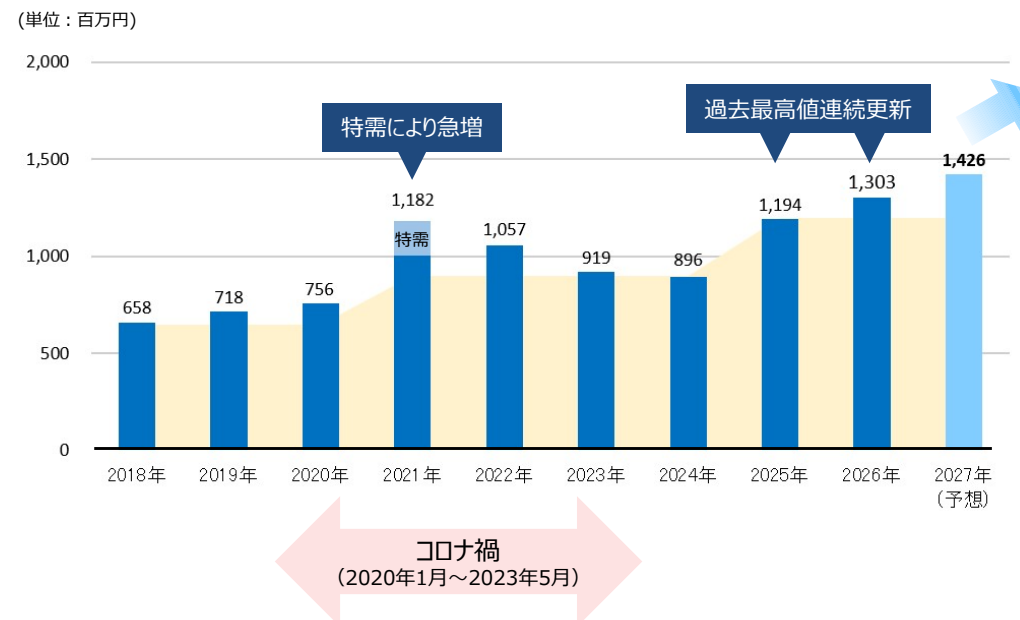


売上高・経常利益ともに、安定的に推移しております

売上高



経常利益



- Point 01** 売上高・経常利益は、外部環境の変化の中、外的要因の影響を最小限に抑え、**安定的に推移**しております。
- Point 02** コロナ禍またコロナ収束後も、2021年4月広島営業所の新築移転、2022年6月鹿児島営業所の開設、2024年5月東京営業所・東京物流センターの新築移転など、**営業拠点の拡充・強化**に積極的に取り組んでおります。
- Point 03** 2021年5月期は、GIGAスクール構想案件の特需により急増しておりますが、2022年5月期から2024年5月期にかけても特需要因のあった年度とほぼ同等水準の売上を維持し、2025年5月期と2026年5月期は、案件の好調な受注により、過去最高値を連続して更新しております。なお、2027年5月期以降も同等水準以上の売上を見込んでおり、**継続的なトップライン伸長**に取り組んでおります。

3

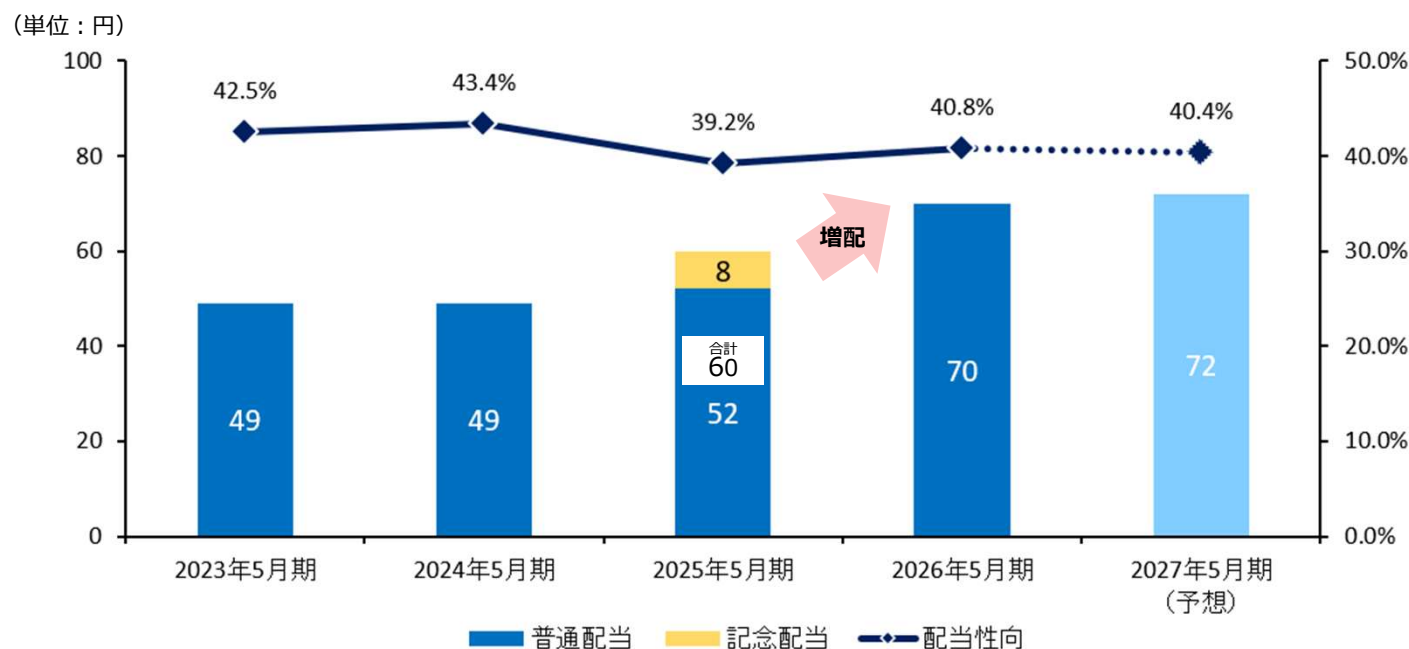
株主還元

安定的かつ継続的な配当を実施していくことを配当の基本政策としております

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営施策としており、会社の業績に応じた適正な利益還元に加え、日常の事業運営に必要な運転資金と将来の事業展開のための内部留保を確保して健全な財務体質を維持しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施していくことを配当の基本政策としております。

CHECK! 2026年5月期の業績を踏まえ、1株当たり年間配当予想額を、以下のとおり修正させていただいております。

	2025年5月期	2026年5月期 当初予想	2026年5月期	前期増減	2027年5月期 予想
年間配当金	60円00銭	63円00銭	70円00銭	10円00銭	72円00銭
内訳					
(普通配当)	52円00銭	63円00銭	70円00銭	18円00銭	72円00銭
(記念配当)	8円00銭	—	—	△8円00銭	—
配当性向	39.2%	40.5%	40.8%	+1.6%	40.4%



4

トピックス

外部環境による変化と、当社取り組み

💰 為替市場の状況

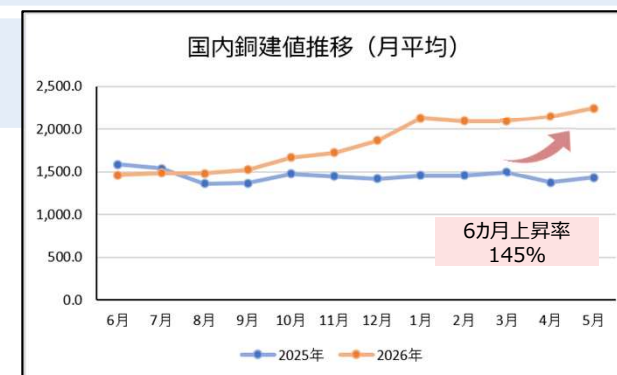
市場状況	為替相場は、米国とイランの停戦交渉を巡る報道、中東情勢による原油高及び日米の金融政策の動向に大きく左右される一方で、財務省による過去最大規模の為替介入への警戒感も強く、不安定な値動きや円安リスクが続いており、歴史的な円安水準となっております。
取り組み	一部商品の海外仕入れはありますが、為替レートの変動による原価の増減は、可能な範囲で販売価格に価格転嫁する方針です。

📈 銅相場の状況

相場状況	銅相場は、電気自動車(EV)や再生可能エネルギーなど脱炭素インフラ向け需要の増加や、南米などの主要鉱山における採掘トラブルによる慢性的な鉱山側の供給不足に加え、進行する円安が国内価格を強力に押し上げ、歴史的な高値圏で推移しました。
取り組み	仕入価格の変動は、可能な範囲内で販売価格に価格転嫁（仕入値が変われば、売値を連動して変える方針）しております。

価格転嫁に要するタイムラグ

一般的に原材料価格上昇から販売価格へ転嫁されるまでの平均期間として、半年～1年程度のタイムラグが生じることが多いとされておりますが、当社では、品目によって様々な背景（価格交渉の期間、在庫の存在など）があるため、公表しておりません。



（出所）一般社団法人日本電線工業会データより当社作成

影響

業績に大きな影響を与える問題は発生していません。



今後の市場の状況等によっては、業績へ影響を与える可能性があります。

営業・物流拠点の新築・移転計画の進捗

直近の新築・開設状況

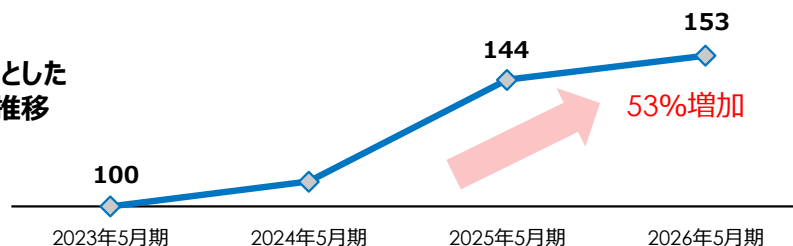
計画的な取り組み

東京営業所・東京物流センターの新築移転

営業開始日
2024年5月1日

従来に比べ商品の収容能力が飛躍的に増加することで、これまで松山にある本社物流センターから東日本に送っていた商品についても東京物流センターにストックできるようになり、顧客に届けるリードタイムを短縮しました。

2023年5月期を100とした
東京営業所の売上高推移



CHECK!

計画的な設備投資が奏功し、東日本ブロックの物流ハブ拠点の役割を果たすとともに、首都圏におけるシェアを順調に拡大

その他の営業所

中長期的な成長戦略

その他の営業所についても、必要に応じてキャパシティの増加を図るほか、現在空白地帯となっているエリア開拓も含め、引き続き、営業体制・物流網の強化を推進してまいります。

沖縄営業所の新築移転計画

沖縄営業所(賃貸物件)の事務スペースの最適化、在庫品目に適した倉庫スペースの確保及び配送リードタイムの短縮など、今後の更なる業容拡大及び効率化のため、新沖縄営業所の建設用地を取得し、新社屋の建築に着手しました。

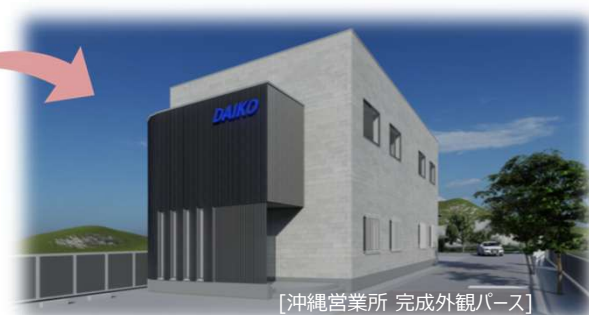
所在地	沖縄県那覇市字仲井真 2 7 2 番地 2		
土地面積	428.97㎡		
資金計画	自己資金		
取得年月日	2024年12月19日		
現況	2025年9月 2026年6月 2027年内	現存していた建物の解体撤去完了 新社屋の建築着工 竣工・移転・営業開始予定	CHECK!

CHECK!

(注) 2027年5月期の業績に与える影響は業績予想に反映しております。



沖縄営業所



[沖縄営業所 完成外観パース]

イベント需要の案件獲得に向けた取り組み

■ 通信インフラ基盤の整備

総務省はデジタル田園都市国家構想の実現のためには、光ファイバ・5G・データセンター/海底ケーブル等のデジタル基盤の整備が不可欠の前提であり、一体的かつ効果的に実施するための整備計画を策定し一層の整備推進を図っています。

デジタル田園都市国家インフラ整備計画
高速通信網 5Gや光ファイバの全国展開を推進

CHECK!

FTTH

Fiber to the Home

ICTインフラ地域展開マスタープランの取組を踏まえた
インフラ整備計画のロードマップ策定

イベント需要の案件獲得 ①

DAIKO
イベント案件

販売が見込まれる商品

- LAN材料
- 無線通信機器 等

■ 緊急防災・減災事業

防災行政無線のデジタル化の移行完了後においても、未整備地域は残るほか、早期にデジタル移行した地域ではシステム更新が順次発生しますので、需要は終息することなく業績に寄与していくものと見込んでいます。

災害時に迅速に対応するための情報網の構築
自治体施設・インフラの老朽化対策・防災対策の推進



防災無線を含めた活用事業の需要
防災行政無線デジタル化

令和8年度～令和12年度（5年間延長）
緊急防災・減災事業債の事業期間

CHECK!

イベント需要の案件獲得 ②

DAIKO
イベント案件

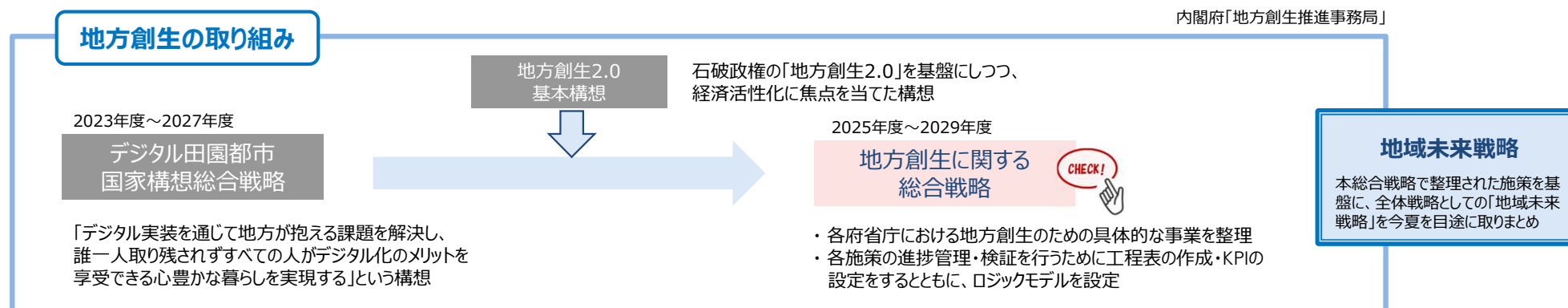
販売が見込まれる商品

- 架空幹線材料
- 周辺機器類 等

イベント需要の案件獲得に向けた取り組み

■ 地方創生に関する総合戦略

「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を変更し、「地方創生に関する総合戦略」を策定



GX・DX分野における大規模投資の促進

半導体・蓄電池等のGX・DX分野における大規模な投資の促進と併せて、産学官連携による関連人材の育成強化を図る

用語の説明	GXとは、「Green Transformation」（グリーントランスフォーメーション）の略。脱炭素社会に向けて再生可能なグリーンエネルギーに転換していく取り組み
	DXとは、「Digital Transformation」（デジタルトランスフォーメーション）の略。デジタル技術を使って、企業や組織のあり方を根本から変え、新しい価値を創造する取り組み



成長投資促進策と一体のインフラ整備

地域を超えたビジネス展開を図る中堅企業を支援し、大胆な投資促進策とインフラ整備を一体的に講ずることで、地方に大規模な投資を呼び込み、地域ごとに産業クラスターを戦略的に形成していく

イベント需要の案件獲得 ③



- 販売が見込まれる商品
- LAN材料
 - 無線通信機器 等

案件獲得に向けた中長期的な取り組み



地域未来戦略

新時代のインフラ整備

地方が持つ伸び代を活かし、国民の暮らしと安全を守るため、地域ごとの産業クラスターを全国各地に形成し、世界をリードする技術・ビジネスを創出とともに、地場産業の付加価値向上と販路開拓への強力な支援など

▶ 総合戦略を支えるハード・ソフトのデジタル基盤整備

- ✓ **光ファイバ**
不採算地域や条件不利地域等を含め、全国的な光ファイバ網の整備を推進
- ✓ **データセンター／海底ケーブル等**
地方データセンター拠点や日本周回ケーブルの整備、陸揚局の地方分散等を推進
- ✓ **5G**
新たな周波数割当て、基地局開設の責務の創設など5G網の整備を推進
- ✓ **Beyond 5G**
通信インフラの超高速化・省電力化等を実現する技術の研究開発を加速

戦略産業クラスター計画

戦略17分野に関する検討が主導する形で、企業の大規模投資を中心に形成

①AI・半導体②デジタル・サイバーセキュリティ③情報通信④量子⑤防衛産業⑥航空・宇宙⑦海洋⑧造船⑨マテリアル⑩合成生物学・バイオ
⑪創薬・先端医療⑫資源・エネルギー・安全保障・GX⑬フュージョンエネルギー⑭フードテック⑮防災・国土強靱化⑯港湾ロジスティクス⑰コンテンツ

▶ 重要業績評価指標（KPI）

KPI 01

光ファイバの世帯カバー率について、
2027年度末までに世帯カバー率
99.9%とすることを旨とする。



KPI 03

全国各地で十数か所の
地方データセンター拠点を
5年程度で整備する。



KPI 02

5Gの人口カバー率について、
2023年度末に**全国95%**、
2025年度末までに**全国97%**、
2030年度末までに**全国99%**、
とすることを旨とする。



KPI 04

日本を周回する
海底ケーブル
(デジタル田園都市スーパーハイウェイ)を
2025年度末までに**完成**させる。

出所：内閣官房 地域未来戦略本部事務局ホームページ

DAIKO

中長期的な取り組み

光伝送路敷設

通信の大容量化、高速化に伴い、既設光伝送路の増強・張替の需要増大。

基地局増設

都市部では、新設からエリアの死角解消や容量確保の整備などエリアの質的向上へと移行し、地方では、基地局を点から面へ広げるエリアカバーなどの需要が拡大する見通し。

ローカル5G

対応機器の拡充や、パケット型・パッケージ型など初期投資を抑えられるソリューションの登場により、企業や自治体等の地域DX基盤として導入が加速する見通し。

◆販売が見込まれる商品

・光ケーブル
・支線材料
・装柱金物 等

・電源ケーブル
・非常電源設備
・配管材 等

・LAN材料
・無線通信機器 等

CHECK! 「地域未来戦略」の目標に掲げている地域ごとの戦略産業クラスター形成の実現のためには、インフラの整備が必要であり、設備投資の活性化が期待されます。

持続可能な社会の実現と企業価値の向上に向けた取り組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



私たちは、企業理念「企業は人なりの考え方に基つき、社員とその家族、株主及び関係取引先に対し最大の利益を供給する」のもと、持続可能な社会づくりに貢献すべく、E S G を重視した経営に取り組むとともに、S D G s の目標達成も目指して事業活動を推進してまいります。

当社における取り組み

地球環境への貢献



- ・環境保全活動の推進
- ・省資源、省エネ、廃棄物削減

魅力ある職場の実現



- ・従業員の健康増進
- ・ワークライフバランスの推進

ガバナンスの強化



- ・コーポレート・ガバナンスの徹底
- ・情報セキュリティの徹底

人権方針

当社は「人権の尊重」を企業として果たすべき社会的責任と認識し、「人権方針」を策定しております。本方針の下、事業活動に関わる全てのステークホルダーの人権を尊重し、持続可能な社会の実現を目指します。

認定一覧

くるみん認定

当社は、「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の「くるみん認定」を受けています。



CHECK!

● 従業員持株会会員に対する特別奨励金支給

当社は、従業員への人的資本投資の取り組みの一環並びに経営参画意識及びエンゲージメントの向上を目的として、従業員に対して当社株式を取得する機会を提供する「特別奨励金スキーム」を導入しておりますが、この考え方をさらに推し進め、ダイコー従業員持株会への加入促進を図るため、支給条件を満たすすべての会員を対象として、会員一人当たり10万円の特別奨励金を支給いたしました。より多くの従業員が株主の皆様と中長期的な株主価値を共有する機会を提供できると考えております。



本資料は、当社の財務情報、経営情報等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる表明・保証を行うものではありません。掲載されている当社の計画や戦略、業績の見通し等は、将来の予測等に関する情報を含む場合があります。これらの情報は現在入手可能な情報に基づくものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実な要素を含んでいます。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があり、当社はこれらの情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。なお、当社は、新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものでもありません。以上を踏まえ、投資に関するご決定は、ご自身のご判断で行うようお願いいたします。